

雪女（ゆきおんな）

2023/01/22

叶うなら会ってみたいと願う人

来週から1週間はこの冬一番の寒波到来で日本海側を中心に大雪予報。俳句にこんな冬（晩冬）の季語として、「雪女（ゆきおんな）」があります。「雪女」は、雪の夜に出る妖怪で、別名「雪女郎（ゆきじょうろう）」も季語になっています。(Ref.1)

三日月の櫛や忘れし雪女 — 佐藤紅緑

みちのくの雪深ければ雪女郎 — 山口青邨

「雪女」を扱った昔話は雪深い地方に多く伝承されています。地方によって「雪おんば」「雪降り婆(ばば)」「雪娘」「雪女郎（ゆきじょうろう）」「つらら女」「雪姉さ（あねさ）」「雪ん婆（ば）」「雪降り婆」など、様々な呼び名で語り継がれています。「雪女」の多くは「死」を表す白装束を身にまとい、男に冷たい息を吹きかけて凍死させ、男の精を吸いつくして殺しており、広く「雪の妖怪」として恐れられています。ただ、恐ろしくも美しい存在として語られることが多く、雪の性質からはかなさを連想させられます。(Ref.1-4)

その恐ろしくも美しい代表に、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の「雪女」があります（下記の[あらすじ](#)参照）。小泉八雲の描く「雪女」の原伝説については、東京・大久保の八雲の家に奉公していた東京府西多摩郡調布村（現在の青梅市南部の多摩川沿い）出身の親子（お花と宗八とされる）から聞いた話が元になっています。江戸時代の日本は現在よりも気温が低く、現在の東京都多摩地域西部に相当する地域は冬に大雪が降ることも珍しくなかったそうです。

（あらすじ）

武蔵の国のある村に、茂作と巳之吉という2人の樵が住んでいた。茂作はすでに老いていたが、巳之吉の方はまだ若く、見習いだった。

ある冬の日のこと、吹雪の中帰れなくなった二人は、近くの小屋で寒さをしのいで寝ることにする。その夜、顔に吹き付ける雪に巳之吉が目覚めると、恐ろしい目をした白づくめ、長い黒髪の美女がいた。巳之吉の隣に寝ていた茂作に女が白い息を吹きかけると、茂作は凍って死んでしまう。

女は巳之吉にも息を吹きかけようと巳之吉に覆いかぶさるが、しばらく巳之吉を見つめた後、笑みを浮かべてこう囁く。「お前もあの老人（=茂作）のように殺してやろうと思ったが、お前はまだ若く美しいから、助けてやることにした。だが、お前



雪女

は今夜のことを誰にも言ってはいけない。誰かに言ったら命はないと思え」そう言い残すと、女は戸も閉めず、吹雪の中に去っていった。

それから数年後、巳之吉は「お雪」と名乗る、雪のように白くほっそりとした美女と出逢う。二人は恋に落ちて結婚し、二人の間には子供が十人も生まれた。しかし、不思議なことに、お雪は十人の子供の母親になっても全く老いる様子がなく、巳之吉と初めて出逢った時と同じように若く美しいままであった。

ある夜、子供達を寝かしつけたお雪に、巳之吉が言った。「こうしてお前を見ていると、十八歳の頃にあった不思議な出来事を思い出す。あの日、お前にそっくりな美しい女に出逢ったんだ。恐ろしい出来事だったが、あれは夢だったのか、それとも雪女だったのか……」

巳之吉がそう言うと、お雪は突然立ち上り、叫んだ。「お前が見た雪女はこの私だ。あの時のことを誰かに言ったら殺すと、私はお前に言った。だが、ここで寝ている子供達のことを思えば、どうしてお前を殺すことができようか。この上は、せめて子供達を立派に育てておくれ。この先、お前が子供達を悲しませるようなことがあれば、その時こそ私はお前を殺しに来るから……」

そう言い終えると、お雪の体はみるみる溶けて白い霧になり、煙出しから消えていった。それきり、お雪の姿を見た者は無かった。

来週から1週間は、入間や狭山なども寒くなりそうです。もし、大雪にでもなれば、「雪女」に会えるかも。青梅に近いですから。叶うなら会ってみたいと夢見ますね。

なお、「雪男」は「イエティ」や「ビッグフット」の訳語として、近代になって付けられたものであり、「雪女」の男性版ではありません。

昔から人気ある物語りは、「決して他言してはなりません」、「見てはいけません」などの言い渡し、約束を破ったことから始まっています。所詮、人間とはそんな約束には弱いのです。

おとぎ話「浦島太郎」では、乙姫から「決して蓋を開けてはなりません」としつつ渡された玉手箱を、太郎は亀に乗って元の浜に帰り、乙姫の忠告を忘れて開けたのでした。



浦島太郎

物語「鶴の恩返し」では、孝行して老夫婦を助けていた娘が、「絶対に中を覗かないで下さい」と夫婦に約束を言い渡して部屋にこもり、三日三晩不眠不休で布を織ります。初めのうちは辛抱して約束を守っていた老夫婦だが、娘はどうやってあんな美しい布を織っているのだらうと、老妻の方がついに好奇心に勝てず約束を破って覗いてしまうのです。

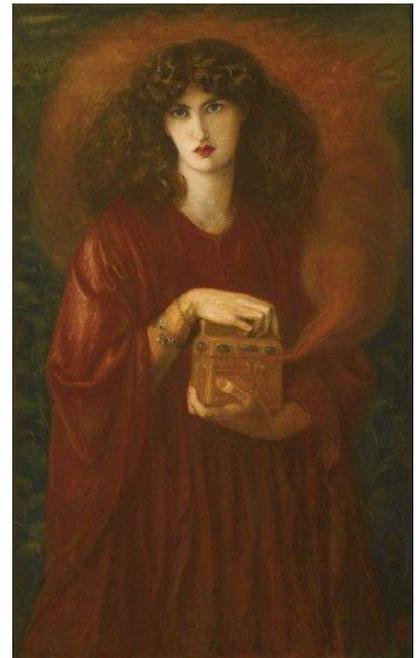


鶴の恩返し

ギリシャ神話にも同種の話があります。美しい女性パンドラ (パンドーラー)は、人類最初の女性として神々によって作られ、地上に送られました。その時、「決して開けてはならない」と言われて壺（甕（かめ）、箱）を持たされましたが、好奇心に負けたパンドラは、そのふたを開けてしまいます。こんにち、決して触れてはならないもの、開けてはならないものの例えとして「パンドラの箱」という慣用句の原話です。

『ヴィーナスとアドニス』は、ウィリアム・シェイクスピアの3つの長編詩の1つ。原典は、ギリシャ神話にあります。「ヴィーナス」は愛・美の女神、「アドニス」は、フェニキアの王キニラスとその王女のミュラの息子で美少年の代名詞でもあります。

生まれた赤ん坊のアドニスの美しさに、ヴィーナスが恋をします。やがて彼女は赤ん坊のアドニスを箱の中に入れて、冥府の女王のペルセポネの所に預けた。彼女はペルセポネに、決して箱の中を見るなと注意しておいた。しかし、ペルセポネは好奇心に負け、箱を開けてしまい、アドニスに恋してしまう。ここから、アドニスをめぐるヴィーナスとペルセポネの争いが始まるのです。



パンドラ（ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ）

参考文献

Ref.1 [雪女 - Wikipedia](#)

Ref.2 [小泉八雲の「雪女」は現青梅市の多摩川沿いで語られた話が元だった。 | 多摩めぐりブログ \(tama-meguri.com\)](#)

Ref.3 [「雪女」は冬の季語 各地に残る「雪女伝説」が意味すること - ウェザーニュース \(weathernews.jp\)](#)

Ref.4 [雪女、精霊か妖怪か山神か。エルザ\(雪アナ\)もモネ\(ONE PIECE\)も雪女 - waqwaq \(waqwaq-j.com\) シッケンケン：ファンタジィ事典 \(hetappi.info\)](#)